科目名称	成人看護学Ⅰ（急性期看護）	学年学期	単位数	時間数
		第２学年　前期	1	30
担当教員	小路　陽子	授業に関わる実務経験	■　有　（　看護師　） □　無	

【1】 授業概要

急激な健康破綻をきたし危機的状況にある対象の身体的、心理的、社会的に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に向けた看護の基礎的知識を習得するとともに、その家族への看護支援方法について学ぶ。

【2】 学習目標

1. 急性期にある対象と家族の特徴を説明できる。
2. 急性期にある対象をアセスメントするために必要な情報を説明できる。
3. 急性期にある対象と家族の回復過程に応じた援助方法を説明できる。

【3】 第１看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

■　1. 生活者としての人間の理解
■　2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■　3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■　4. 科学的根拠に基づいた看護実践
■　5. 多職種との連携・協働
□　6. 地域医療の理解と生活の支援
■　7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	急性期看護の考え方	講義
2	急性期患者の観察とアセスメント	講義
3	主要病態に対する救急処置と看護Ⅰ　「意識障害」	講義
4	主要病態に対する救急処置と看護Ⅱ　「ショック・循環障害①」	講義
5	主要病態に対する救急処置と看護Ⅱ　「ショック・循環障害②」	講義
6	主要病態に対する救急処置と看護Ⅱ　「ショック・循環障害③」	講義と演習
7	主要病態に対する救急処置と看護Ⅴ　「代謝異常」	講義
8	主要病態に対する救急処置と看護Ⅵ　「熱傷・中毒」	講義
9	主要病態に対する救急処置と看護Ⅲ　「呼吸障害」	講義
10	主要病態に対する救急処置と看護Ⅳ　「体温異常」	講義
11	主要病態に対する救急処置と看護Ⅶ　「心肺停止」	講義
12	集中治療室の看護の実際	講義
13	第１～12 回までのまとめ ～知識と技術の統合（成人看護技術）～ 「意識障害」「ショック」「循環障害」「呼吸障害」「体温異常」「代謝異常」「熱傷・中毒」の救急処置と看護について復習	実技演習
14		
15	試験とまとめ	

【5】 評価方法

筆記試験（70%）、演習（30%）で総合的に評価する。

※第 13・14 回の実技演習を欠席した場合は、授業時間外で演習をする必要がある

【6】 教科書

山勢博彰：系統看護学講座　別巻　救急看護学（第６版）　医学書院　2022　（電子版）
山勢博彰：系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学（第２版）　医学書院　2022　（電子版）

【7】 参考書

野川美智子：看護実践に活かす　中範囲理論（第２版）　メヂカルフレンド社　2021　（電子版）
任和子・秋山智也：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
高木永子：看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント（第５版）　Gakken　　他随時紹介

【8】 受講生へのメッセージ

患者さんの急性期への対応や救命処置ができる看護師になるためには、本科目をしっかり学んでおく必要があります。3 年次に行う急性期・周手術期看護学実習で活かせる知識を身につけましょう。